

表12 (つづき)

採掘 No.	遺物 No.	調査 回数	旧採掘 No.	グリッド 遺構	取上 No.	取上 層位	層備考	段階	種別	石材	石材備考	被熱	遺存	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	
601	2			4T	不明	不明		不明	軽石製品	軽石		○	破片か	35.7	30.2	22.4	11.7	
602	2			7T	0002	一括		不明	軽石製品	軽石		○	完形	135.8	74.3	55.6	97.2	
603	2			10T	0002	1		表土	軽石製品	軽石			完形	71.8	57.9	50.1	51.0	
604	2			11T	0006	不明		不明	軽石製品	軽石	シラス		完形	47.7	28.6	18.1	6.7	
605	2			11T	0008	A2下		I-2	軽石製品	軽石			全体的に研磨され、一部皿状に窪む	45.9	24.6	14.6	2.8	
606	2			11T	0053	A2下		I-2	軽石製品	軽石			破片	20.3	17.0	12.4	1.4	
607	2			13T	0003	表土		表土	軽石製品	軽石	シラス		完形	46.5	42.7	32.2	13.7	
608	2			13T	0003	表土		表土	軽石製品	軽石	シラス		完形	42.6	27.0	16.8	2.3	
609	1			SK015(A2)	0023	5		I-2	石株	軟質凝灰質泥岩			一層欠損、中央部で折損	180.0	33.2	25.1	166.6	
610	1			SK015(A2)	0075	18		I-2	石株?	軟質凝灰質泥岩			一層欠損	52.2	28.5	26.8	29.6	
611	1	97-54		A64	0002	1		表土	石株	緑色片岩		○	両端部欠損	54.9	34.9	29.0	100.0	
612	1			B33	0016	4		IV-1	石株	点紋緑泥片岩		○	両端部欠損、片面欠損?	55.8	49.6	16.7	74.9	
613	1			B35	0004	2	黄褐色	IV-2	石株	緑泥片岩			両端部欠損	49.6	38.4	18.4	54.8	
614	1			C68	0008	不明		不明	石株	白雲母石英片岩		○	両端、表面の一部以外欠損	134.6	84.4	46.1	771.3	
615	1			C78	0006	2	茶褐色	IV-2	石株	白雲母石英片岩		○	両端、表面の一部以外欠損	103.5	53.2	42.2	277.2	
616	1			D71	0029	3		II	石株	白雲母石英片岩		○	全面欠損	110.1	48.4	30.5	183.1	
617	1	97-53		D71	0029	3		II	石株	点紋緑泥片岩		○	両端部欠損	82.3	48.6	47.0	310.0	
618	1			D75	0013	2	茶褐～黒褐	III	石株	粘板岩		○	両端、表面の一部以外欠損	76.8	39.2	12.5	32.0	
619	1	97-56		E10	0005	3		II	石株	緑色岩		○	両端部欠損	86.0	36.7	24.7	135.0	
620	1			不明	0026	不明		不明	石株	白雲母石英片岩			両端、表面の一部以外欠損	63.5	23.4	12.5	20.6	
621	1			A04	0003	2	黒貝	III	石株?	粘板岩		○	表面が剥落	120.1	38.2	6.5	37.0	
622	1			A27	0013	5	黒色	I-2	石株?	軟質凝灰質泥岩			両端部欠損	66.2	44.6	41.7	124.2	
623	1			A84	0002	2		不明	石株?	粘板岩	2.7		一部を除いて欠損	45.1	11.9	6.9	3.1	
624	1			C97	0004	3	黒貝	III	石株?	粘板岩		○	全面欠損	49.3	36.2	6.2	8.5	
625	1			D62	0005	2	黒貝	III	石株?	軟質凝灰質泥岩			一層欠損	66.2	27.0	25.9	59.0	
626	1			D62	0012	4	黒貝	III	石株?	軟質凝灰質泥岩			一層欠損	61.4	25.7	22.4	38.6	
627	1			D82	0002	2	黒貝 黒色	III	石株?	白雲母石英片岩			一層欠損、表面一部剥落	59.0	16.0	13.7	22.7	
628	2			SI-6	0021	層土内		I-2	石株	白雲母石英片岩			一層欠損	71.1	27.1	26.1	89.0	
629	2			SI-6	0147	層土内		I-2	石株	緑泥片岩			破片	51.2	31.6	12.8	24.4	
630	2			1T	0001	表土		表土	石株	緑泥片岩			基部欠損	99.7	38.9	30.2	150.6	
631	2			2T	0066	2		III?	石株	緑泥片岩			両端部欠損	63.4	16.2	7.0	11.7	
632	2			3T	0002	2		III?	石株	緑色片岩			破片	24.1	14.9	5.1	1.9	
633	2			3T	0003	2c		IV-2	石株	ホルンフェルス			破片	39.8	22.6	5.3	3.9	
634	2			13T	0001	表土		表土	石株	点紋緑泥片岩			破片	38.7	14.3	12.2	16.1	
635	2			13T	0003	表土		表土	石株	白雲母石英片岩		○	両端部欠損	127.9	36.6	28.3	238.8	
636	2			西貝層	不明			I-2	石株	粘板岩			破片	39.2	24.5	4.8	5.3	
637	2			西貝層外	不明			不明	石株	点紋緑泥片岩		○	両端と二側面欠損	180.5	67.0	61.8	1030.4	
638	2			東表	表土			表土	石株	石英片岩			○	両端と片面欠損	45.3	83.2	62.7	380.8
639	7			表桜	10T付近	表土		表土	石株	点紋緑泥片岩		○	両端部欠損	67.3	33.4	16.1	60.5	
640	1	99-65		C85	不明	不明		不明	垂飾?	緑泥片岩			破片	33.3	25.4	3.4	4.4	
641	2			13T	0004	サブトレ		不明	垂飾	透閃石岩	2.96		完形	27.2	15.8	7.7	4.8	
642	1			A64	0004	2		I-2	原石	滑石				58.8	58.6	21.2	66.1	
643	2			13T	1.3.北貝層	サブトレ		不明	硯	粘板岩				71.6	46.6	10.2	173.9	

w (12) 独鈷石 (第94図62)

第1次調査D75グリッドの耕作土から1点出土した。小澤氏により再実測及び計測等の観察がなされており、その実測図を転載する(小澤2011)。緑色岩の礫を素材とし、敲打・研磨により上下対称形の形態を作出する。括れ部を挟んだ一方の端部(図の下側)の両面ともう一方の端部(図の上側)の片面に窪みが認められる。

引用文献

小澤清男 2011 「千葉県の独鈷石・独鈷石形土製品(3) -追加報告ならびに形態分類と編年的予察-」『貝塚博物館紀要』第38号 千葉市立加曽利貝塚博物館

(13) 垂飾 (第94図67、68)

4点出土しているが、出土層位が明確なものはない。67、68は10トレンチ付近の表採資料である。67はヒスイ製の完形品である。68はメノウ製で穿孔部で欠損している。

4 石器石材分析

肉眼および実体顕微鏡(20倍)で観察し、岩石種名を判定した。また、一部石器については比重を計測し、岩石種の判定基準に利用した。比重の計測方法はアルキメデスの原理を用いた。

(1) 各岩石の判定基準

1. 砂岩: 石英粒を主とする砂粒(粒径1/16~2mm)から構成される。
2. ホルンフェルス: 頁岩・粘板岩起源の接触変成作用を受けたもののみを対象とする。ほぼ同じ大きさの円もしくは楕円の模様(点紋: 堇青石・紅柱石・黒雲母)が一面に認められるもの、点紋は認められないが等粒状の微小な黒雲母で覆われているもの、割れ口の色が赤紫色を帯びているものなどある。頁岩・粘板岩とは連続的に変化するため明確に分けることができない場合がある。
3. 頁岩: 中・古生層起源のものを対象とする。極めて細粒の碎屑粒子である泥(粒径1/16mm~1/256mmのシルトおよび1/256mm以下の粘土)から構成される。暗灰色~黒色のものが多く、細粒で粒子が認められない。厳密には平らな面で割れる性質を有する泥岩を指すが、平らな面で割れる性質を有しない泥岩も含めることにする。